



**CASBEE-広島 (2010年ver.1)**  
**S&Cプロジェクト(B工区)先行技術センター**

 用途等で評価が不要となる項目については、自動的に網掛けが入ります  
 欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE広島 2009年版  
 ■ベース評価ソフト: CASBEE-NCb\_2008(v.3.2)

スコアシート	実施設計段階	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
			評価点	重み係数	評価点	重み係数	
<b>Q 建築物の環境品質</b>							<b>2.5</b>
<b>Q1 室内環境</b>				<b>0.30</b>			<b>2.3</b>
<b>1 音環境</b>			<b>1.9</b>	0.15		-	<b>1.9</b>
<b>1.1 騒音</b>			<b>3.0</b>	0.40		-	
1 暗騒音レベル			3.0	1.00		-	
2 騒音対策				-		-	
<b>1.2 遮音</b>			<b>1.4</b>	0.40		-	
1 開口部遮音性能			1.0	0.60		-	
2 界壁遮音性能			2.0	0.40		-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-		-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-		-	
<b>1.3 吸音</b>			<b>1.0</b>	0.20		-	
<b>2 温熱環境</b>			<b>2.1</b>	0.35		-	<b>2.1</b>
<b>2.1 室温制御</b>			<b>2.0</b>	0.50		-	
1 室温設定			3.0	0.38		-	
2 室温変動の低減対策				-		-	
3 外皮性能			2.0	0.25		-	
4 ゾーン別制御性			1.0	0.38		-	
5 自然気流制御				-		-	
6 自然換気				-		-	
7 換気設備の設置				-		-	
8 換気設備の制御				-		-	
<b>2.2 湿度制御</b>			<b>1.0</b>	0.20		-	
<b>2.3 空調方式</b>			<b>3.0</b>	0.30		-	
<b>3 光・視環境</b>			<b>2.2</b>	0.25		-	<b>2.2</b>
<b>3.1 昼光利用</b>			<b>3.0</b>	0.30		-	
1 昼光率		昼光率=1.6	3.0	0.60		-	
2 方位別開口				-		-	
3 昼光利用設備			3.0	0.40		-	
<b>3.2 グレア対策</b>			<b>1.0</b>	0.30		-	
1 グレア対策				-		-	
2 昼光制御			1.0	1.00		-	
<b>3.3 照度</b>			<b>2.0</b>	0.15		-	
1 照度			2.0	1.00		-	
2 照度対策				-		-	
<b>3.4 照明制御</b>			<b>3.0</b>	0.25		-	
<b>4 空気質環境</b>			<b>3.2</b>	0.25		-	<b>3.2</b>
<b>4.1 発生源対策</b>			<b>4.0</b>	0.50		-	
1 化学汚染物質		F☆☆☆☆を70%以上の面積に採用。天井裏F☆☆☆☆不使用。	4.0	1.00		-	
2 化学汚染物質				-		-	
3 化学汚染物質				-		-	
<b>4.2 換気</b>			<b>3.3</b>	0.30		-	
1 換気量		基準法換気量に対し、事務室(1)1.55倍、事務室(2)1.65、事務室(3)1.68倍	5.0	0.33		-	
2 自然換気性能			1.0	0.33		-	
3 取り入れ外気への配慮		事務室空気取入口は汚染源の無い東側・南側外壁面に設置し、排気口とは6m以上離隔を確保。	4.0	0.33		-	
4 換気設備				-		-	
<b>4.3 運用管理</b>			<b>1.0</b>	0.20		-	
1 CO <sub>2</sub> の監視			1.0	0.50		-	
2 喫煙の制御			1.0	0.50		-	
<b>Q2 サービス性能</b>			-	<b>0.30</b>		-	<b>3.0</b>
<b>1 機能性</b>			<b>1.9</b>	0.40		-	<b>1.9</b>
<b>1.1 機能性・使いやすさ</b>			<b>1.6</b>	0.60		-	
1 広さ・収納性			1.0	0.33		-	
2 高度情報通信設備対応			1.0	0.33		-	
3 バリアフリー計画			3.0	0.33		-	
<b>1.2 心理性・快適性</b>			<b>2.3</b>	0.40		-	
1 広さ感・景観			3.0	0.33		-	
2 リフレッシュスペース			3.0	0.33		-	
3 内装計画			1.0	0.33		-	
<b>1.3 維持管理</b>				-		-	
1 維持管理に配慮した設計				-		-	
2 維持管理用機能の確保				-		-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>			<b>3.1</b>	0.31		-	<b>3.1</b>
<b>2.1 耐震・免震</b>			<b>3.0</b>	0.48		-	
1 耐震性			3.0	0.80		-	
2 免震・制振性能			3.0	0.20		-	
<b>2.2 部品・部材の耐用年数</b>			<b>3.3</b>	0.33		-	
1 躯体材料の耐用年数			3.0	0.23		-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔			3.0	0.23		-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔			3.0	0.09		-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔			3.0	0.08		-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給水HIVP:B, 排水VP:BでEは不使用	5.0	0.15		-	
6 主要設備機器の更新必要間隔			3.0	0.23		-	

2.4 信頼性			3.0	0.19		-	
1	空調・換気設備		3.0	0.20		-	
2	給排水・衛生設備		3.0	0.20		-	
3	電気設備		3.0	0.20		-	
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20		-	
5	通信・情報設備		3.0	0.20		-	
3 対応性・更新性			4.3	0.29		-	4.3
3.1 空間のゆとり			5.0	0.31		-	
1	階高のゆとり	階高=4,500	5.0	0.60		-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率=0.082	5.0	0.40		-	
3.2 荷重のゆとり		2Fスラブ積載荷重=4,900N/m <sup>2</sup>	5.0	0.31		-	
3.3 設備の更新性			3.3	0.38		-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.17		-	
2	給排水管の更新性	工場内配管は構造部材を傷めずに直接支持。	4.0	0.17		-	
3	電気配線の更新性	工場内ケーブルラックは構造部材を傷めずに直接支持。	3.0	0.11		-	
4	通信配線の更新性	工場内ケーブルラックは構造部材を傷めずに直接支持。	3.0	0.11		-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.22		-	
6	バックアップスペース	建屋東側及び南側の外壁沿いを室外機置場として利用可能。	4.0	0.22		-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.40		-	2.2
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30		-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		敷地周辺での主な眺望点(メインアクセス)である北西コーナー部分の景観を考慮して緑地を設置。	3.0	0.40		-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30		-	2.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		2.0	0.50		-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-		-	3.4
LR1 エネルギー			-	0.40		-	3.8
1 建物の熱負荷抑制				-		-	-
2 自然エネルギー利用			3.0	0.29		-	3.0
2.1	自然エネルギーの直接利用		3.0	0.50		-	
2.2	自然エネルギーの変換利用		3.0	0.50		-	
3 設備システムの高効率化		ERR=51.7	5.0	0.43		-	5.0
4 効率的運用			3.0	0.29		-	3.0
4.1	モニタリング		3.0	0.50		-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50		-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30		-	2.8
1 水資源保護			3.4	0.15		-	3.4
1.1	節水	節水型器具を採用。	4.0	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水再利用			3.0	0.60		-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.67		-	
2	雑排水再利システム導入の有無		3.0	0.33		-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.5	0.63		-	2.5
2.1	材料使用量の削減		2.0	0.07		-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.25		-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.21		-	
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	-	1.0	0.21		-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		-	-		-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み		3.0	0.25		-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.6	0.22		-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.32		-	
3.2 フロン・ハロンの回避			4.0	0.68		-	
1	消火剤	消火器, 大型消火器の消火剤はABC粉末を使用。	4.0	0.33		-	
2	断熱材	発泡剤を不使用。	5.0	0.33		-	
3	冷媒		3.0	0.33		-	
LR3 敷地外環境			-	0.30		-	3.3
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2排出率=81%	4.5	0.33		-	4.5
2 地域環境への配慮			2.4	0.33		-	2.4
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25		-	
2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.6	0.25		-	
1	雨水排水負荷低減		-	-		-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.33		-	
3	交通負荷抑制	駐輪場150台確保/駐車場付置義務による協議を実施/車路部分に待機・荷降ろしスペース確保	4.0	0.33		-	
4	廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.33		-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33		-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40		-	
1	騒音		3.0	0.33		-	
2	振動		3.0	0.33		-	
3	悪臭		3.0	0.33		-	
3.2 風害、日照阻害の抑制			3.0	0.40		-	
1	風害の抑制		3.0	0.70		-	
2	日照阻害の抑制		3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20		-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	照明総合効率100lm/W以上を採用/照明士による設計/広告物照明なし	5.0	0.70		-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30		-	